

2023年度シェアケーキ事業報告書 (2024年3月末時点)



●お届け先について

現在、毎月全国で 300 家庭分程度、誕生日ケーキを届けることができました。

また4月からは月500台～600台の提供ができるような土台を作ることができました。

去年は月 200 家庭、と考えると、より多くの子ども達に届けられていると感じています。一方、感謝とともに、現在における私たちの課題・そして目指していきたいと思う姿も見えました。

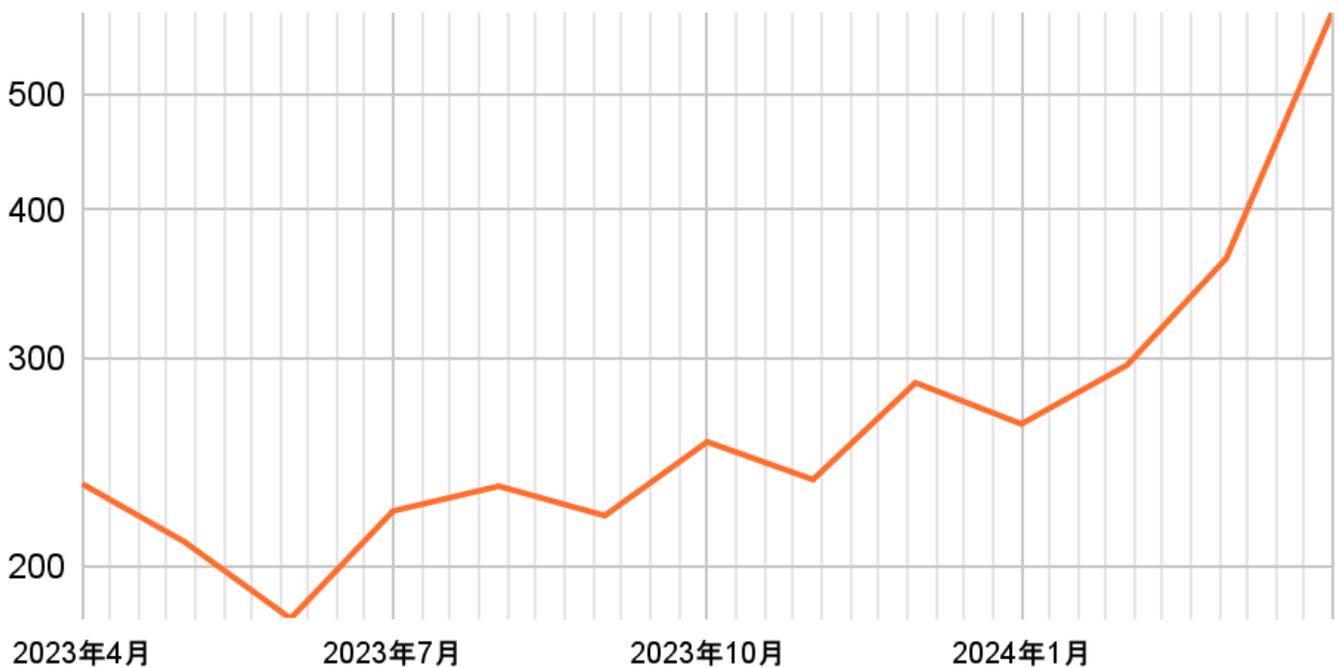
●当選家庭について

(月は生まれ月)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
235	210	181	223	234	221	255	237	286	264	296	364	586

※4月当選家庭は3月に決定するため、こちらでも数として状況共有させていただきます。

家庭の増え方



●家庭の声紹介●

「離婚する前は、せっかくのお誕生日なのでホールケーキを用意してあげたかったのですが、父親の目があり買いつらく、離婚してからは金銭的な問題で、ケーキをやめるかプレゼント代をかなり抑えるか考えていました。離婚前、後も内容は違えど、子どもたちに我慢させることがたくさんあります。

そんな中でのケーキの支援、本当に助かりますし、誰かが応援してくれてる！と力がもらえました。

ありがとうございました」

「子供は自分宛に誕生日当日に冷蔵便で荷物が届きビックリしていましたが、箱を開けたらキレイなケーキが出てきてものすごく喜んでいました。

1人親で日々の生活や学費を工面するのもやっとという生活をしているので、なかなかイベント事(クリスマスなども)の時にも普段と違う食事やプレゼントなども準備ができず、誕生日も同じで、ましてホールの誕生日ケーキを用意してあげることがずっと出来ていなくて。チャリティーサンタさんからのお誕生日のケーキすごく嬉しそうだったので、こーやってケーキを囲んで誕生日をお祝いして貰えることがやはりいくつになっても嬉しいんだなと思います。」

「母子家庭で子供が3人います。私自身は障害者で、B型作業所に通所し、わずかな工賃を貰って生活しています。頂ける食料支援でなんとか生活しており、最近子供がアルバイトをして食料品を買ってきてくれたりして協力してくれています。日々の食事も満足に用意しあげられないので、勿論ケーキなど買ってあげられません。家族団らんの時間もほぼなく、頼れる親戚もいないので、孤独も感じています。子どもはまだ十代なのに苦労させ申し訳ないと思っています。

ケーキを頂けるといことは、おいしいだけではなく、誰かに思われている証拠だと思えます。頑張れ、と応援されていたり、お疲れ様、と労わっていたり、もちろんおめでとうとお祝いされていたり、人のあたたかな気持ちを受け、親子ともにとっても幸せな気持ちになります。」

「経済的に、大きなケーキを買う余裕がありません。ケーキは値段がどんどん高くなり、簡単に買えません。

けれど、幼い子供は、大きなケーキに夢を見ます。誕生日やクリスマスには食べられるものだと、自然と学べます。けれど、準備が出来ません。

食費を削っても、たまに行くスーパーの値段の高さに唖然とします。

そして、小さなケーキを買っても子供の心は満たされません。

去年がそうでした。

今年は、シエアケーキを通じてとっても大きなショートケーキを受け取らせて頂きました。

お店の方の、対応も優しく心温まる時間でした。娘へ、今まで大きな誕生日ケーキを準備することが出来ず、今年の誕生日は体調不良もあり、”どうして大きなケーキが食べられないの？”と悲しい様子。

けれど、”今年は大きなケーキが食べられるから大丈夫、元気になったら誕生日ケーキプレゼント出来るからね”と伝えても、本物を見て見ないと納得しない様子。

そして、誕生日ケーキを受け取りケーキだけでも無事に帰宅したい気持ちで無事に帰宅。

そして、夜初めて見る大きなケーキに娘はお喜び！

「凄い、私のケーキ？私の誕生日のケーキ？」と興奮です。

念願だった、ローソクに火をつけてふうーっと火を消すと、「もう1回やりたい!!」と、思う存分ローソクを灯してお祝いし、大好きないちごがたくさん入ったケーキは、その夜1人でおかわり〜と半分食べました。

こんなに、娘が喜ぶ姿を見たのはいつぶりだろうか？こんなにキャッキョッと笑う子なんだなと、嬉しいような、切ないような。。

チャリティーサンタの誕生日ケーキという子供たち、親たちを思ってくださいるプロジェクトに感謝でいっぱいです。ありがとうございます。

このプロジェクトのおかげで、2023年の娘は、キラキラ輝き、見たことの無い笑い声と笑顔を見せてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、これからもこの支援が多くの方に毎年訪れて欲しいと願っています。」

家庭の声 ～2つの涙～

2023年度は家庭の声に「2つの涙」のエピソードがありました。

ピックアップしてご紹介したいと思います。

我が家は生まれたときからシングルマザーのため、クリスマスも誕生日もお年玉もなにもプレゼントなど用意できるわけではなく、あえてイベントには触れずに過ごしていました。

ある日なぜか、子供が児童館から泣いて帰宅してきたので理由を問うと「誕生日なのに なにももらったことがない」と泣いているのです。

そんなときに この企画を案内され応募させていただきました。

当日はもちろん子供は大喜び。ロウソクもついてきたので、仲良く火を吹き消したり。それだけでも大喜びでした。

この企画は 経済的余裕がない家庭には今後必要だと思います。

ありがとうございました。

ホールケーキを買ったことがない我が家。

お誕生日の曲を歌いながら電気を暗くし、皆様からいただいたケーキを登場させると飛び跳ねて喜んでくれる長男がいました。

「おめでとう！生まれきてくれてありがとう！」と

言うと長男の目から涙がポロポロと落ちてきました。

普段は、思春期に入り反抗ばかりの日常がお誕生日のときは違いました。

皆様からのケーキだよ！と伝えると「みんなにお祝いしてもらって嬉しい」と言っていました。

離婚をして私と長男と長女の3人暮らし。

それがたくさんの人たちからのお祝いでもっとも思い出に残る小学生最後のお誕生日になりました。

心より感謝申し上げます。

ひとつの涙は自分のお誕生日のお祝いに関する悲しい涙。

ひとつの涙は暖かさに触れた時の嬉しい涙。

子どもが流す涙は「嬉しい涙」の方が絶対に良い。

子どもの成長を今後も見守っていきたいと思います。

* 家庭の様子 *

今年多かったのは「物価高」という言葉です。 去年まではコロナの影響も多くあがっていたように思いますが、コロナの声は全体的に減り、給与は変わらない中で物価高の声が非常に多く上がりました。具体的な応募動機の一部を共有させていただきます。

「物価高で給与も減るばかりで光熱費も教育費もあがり、日々生きるのに必死です。でも笑顔が見たい！1年に一回しかない誕生日を祝ってあげたい一心です。」
「物価高騰などで生活が厳しく、誕生日祝い出来るか悩んでいる時にこのお話を伺って非常に助かるし、子供も大変喜ぶと思ひ応募致しました。」
「物価が値上がりして光熱費節約のためにストーブなどもつけず頑張ってます。ケーキを買ってあげる余裕ないので応募させていただきました。」

●誕生日から長期休みの支援に向けて

また誕生日の支援を行う中で、長期休みのしんどさや我慢から、罪悪感を感じお誕生日支援に申し込みをする家庭が多くいることに気がつきました。

実際に、長期休みの8月で、小学生を持つ家庭については「給食がなくなることで食費の負担」、また光熱費の高騰などにより、困難を抱える家庭の様子が見えてきました。

このような中、

チャリティーサンタではこのようなアンケートを受け、夏休みなどの長期支援に取り組んでいく予定です。

「私が難病で働けなくなってから、クリスマスやお誕生日にプレゼントやケーキを買ってあげることが出来ません。**GW**や夏休みにも何処にも連れて行けず悲しい想いをさせています。」
「夏はおかずなしでふりかけで食べる日々も多くなり、子供の体重が増えなくて不安で泣きそうな日々を送っています。エアコンも付けられずに、夜もアイスノンをして寝ていますが、熟睡出来ずに辛い夏休みを過ごしました。もうすぐ娘の誕生日ですが、お祝いできる余裕がなく、子供には申し訳ない気持ちでいっぱいですが、応募させていただきましたら、産ませて来てくれてありがとうとお祝いして、徐々に娘の笑顔がみたいです。」
「8月に誕生日ですが、夏休み中特に出かける予定も、お祝いで外食の予定もありません」
「先程も回答しましたが、8月は手当がない月なので本当に苦しい月です…。買いたくても買えません。食事に行きたくても行けません。」
「今年は下の子ども小学生になって保育園児と違い夏休みは学童に預けるので、お弁当を作らないといけなく食費が嵩み更に我慢してもらわなきゃいけない夏休みになる」
「つい最近長女に「うちって、いわゆるお菓子って感じのものが無いよね」と言われました。仏壇から下げたどら焼やおせんべい等、または非常食等とかねた物は私から見たらお菓子なのですが、例えばポテトチップスやクッキー等はしばらく買ってあげていない事に気が付きました。
夏休みも連休もどこにも行かず、ハロウィーンも何もせず…」
「夏休み、出費が多くて借金して生活してます。
夏休みの借金を返済していきたいのですが、子供のケーキを我慢させたくはないです。よろしくお願いします。」

●課題について(2024年度以降の取り組みについて)

誕生日は毎日やってきます。なので、シェアケーキ事務局には毎日、子どもたちの誕生日をお祝いしたいという声と共に、たくさんのおしんどの声も集まります。

「おかずなしでふりかけで食べる日々も多くなり、子供の体重が増えなくて不安で泣きそうな日々を送っています。」そんなおうちもいらっしゃいました。

大変な中で、お祝いが難しく、シェアケーキを頼ってこられます。

私たちのケーキを届ける家庭には、中には「一見、外見だけではだけでは困窮世帯に見えない」という家庭もいらっしゃいます。しかしながら、それは家庭によっては離婚・死別をした時期などで元々持っていたものを使っていたりする場合や、「子どもがいじめにあったらどうしよう」そんな不安から「かわいそうな家だと思われたくない」そんな気持ちから、「困窮している」ということを隠すために、一生懸命な家庭も多くいます。

その「かわいそうだと思われたくない」という気持ちから「しんどのさ」は見えづらい場合も多くあります。

その中、シェアケーキの活動を通じる中で、孤独に不安を感じている家庭の声が多く届きます。日々の出費がしんどくて、仕事で疲れて、子どものお祝いが不安になってしまう・・・そんな声も届きます。「しんどいということが恥ずかしい」と手を挙げにくい世の中は、支援の手が繋がりにくい世の中だと考えます。

「甘党な息子、去年はホールケーキが食べたいのに我慢して、小さなケーキで良いと言われて、その言葉に甘えてカットケーキを二つ買いました。プレゼントも仲良しの友達みんなが持っている Switch が欲しいと前から言っていたのに、余裕がなく、サイズアウトしていたのでスニーカーや学用品など実用的なものをプレゼントと言って渡しました。

本当は、お誕生日くらいワガママを叶えてあげたい。ちゃんとお祝いしてあげたいです。思い出すだけで悲しくて心が苦しくなります。涙が出ます。母思いの息子で嬉しい分悲しくもなります。ホールケーキプレゼントいただけたら、プレゼントはちゃんと用意して、今年こそはきちんとお祝いしてあげたいです。」

この大変さが伝わらないもどかしさと、一方で偏見を強く持たれる伝え方はその後にくる家庭の辛さもあるだろうと考えながら、私たちは日々葛藤しています。

シェアケーキは「スティグマ(偏見)」を生む活動にたくない、というのが私たちの想いです。お祝いをする優しさや喜びを「困った時はお互い様」と声を掛け合いながら、限りある子ども時代に、子どもが自身が生まれた日に「お誕生日おめでとう」と声をかけてもらう1日を届けたい。

もちろん、家庭の「かわいそう」を打ち出せばたくさん集まる寄付もあると思います。でも、本当にそれで良いのだろうか・・・?と悩む時があります。

2024年度は寄付の拡大、届ける先を増やし、子どもたちに「自分は大切だ」と思える時間を増やすことは第一の目標にしつつ、社会の中でスティグマ(偏見)をなくしていくことにも注力しながら活動を続けていきます。